

Hiroki Yoshimoto Official Report

No. 091130129-1



www.hiroki-yoshimoto.com

Race Report

28 November, 2009 (Twin Ring Motegi)



5ZIGEN NSX、最終ラウンド2連勝で
09' スーパー耐久シリーズ王座獲得！！

(REPORT)

09' Super Taikyu Series Round 8 28 November, 2009

**5ZIGEN NSX 貫禄の2戦連続ポールtoウィン！
最終ラウンドをパーフェクトで飾り、シリーズチャンピオン獲得！！**

今シーズンは開幕戦での表彰台獲得を皮切りに2度の優勝を含む4度の表彰台を獲得、この最終戦に2位に15pt差をつけるランキングトップで挑む事となった5ZIGEN NSX。その最終戦はツインリンクもてぎが舞台。しかしながら今回はいつものロードコースではなく昨年のスペシャルステージとして開催されたスーパースピードウェイ（オーバルコース）を使用。第1ターンと第3ターンにシケインを置く特設コースでの「オーバルバトル」としての開催となった。

迎えた初日フリープラクティスの行われた金曜日。この日のもてぎは初冬の到来を忘れさせるような温かい陽気に包まれ、セッションは開始直後からしばらくは数台のマシンがコースに出るだけの比較的静かなセッション序盤となった。しかしここでアクシデントが発生する。路面温度が16度と低く、路面がまだダスティでラバーも乗っていなかったこのタイミングで走行をしていた#34 (asset.テクノファーストZ) が第1ターンでスピンを喫しフロント側面からウォールに激しくクラッシュ。これによりセッションは一時中断されるも、幸いドライバーは自力でメディカルセンターに向かい大事には至らず。しかし各陣営はオーバルコースの怖さを目の当たりにする事となった。

その中ST3クラスタイトル獲得に向け着々と走行を重ねたのが5ZIGEN NSX。赤旗中断のあった1本目を吉本、平中、松浦の3選手がそれぞれ各5~6周ずつ走行。このセッション2番手のタイム (55" 103) をマークすると2本目は走行を見送り、迎えた最終3本目。ここでは平中選手の走行中に左の足周りにトラブルが出たもののこれは運良く大事には至らず、このセッションも2番手タイム (53" 867) をマークしてこの日の走行を終了。トップタイムこそ#16 (T-MANOLティクセル岡部自動車Z) に譲ったものの、「僕らは僕らの戦いをするだけです」とますますの状態で見事な予選、決勝を迎える事となった。

迎えた翌日の公式予選。今回はレース1、レース2と2回のレースが行われる為、この予選ではファーストタイムがレース1の予選結果に、セカンドタイムがレース2の予選結果に採用されることとなる。この日も前日同様の温かい陽気に包まれたツインリンクもてぎ。そのコンディションの中まずAドライバー予選に出走したのは平中選手。ここで平中選手は53" 9のベストタイムをマークすると、セカンドタイムも54" 1をマーク。まずはクラストップにつけBドライバー予選の吉本にステアリングを託していく。するとステアリングを受けた吉本も「今回からマフラーを換えエンジンもよく回るようになった気がします」と53" 6のベストタイム、53" 8のセカンドタイムをマーク。シリーズタイトル獲得に向け、まさに盤石の走りで見事なレースのPPを獲得する事となった。

その後、公式予選終了からわずか2時間弱のインターバルでのスタートとなった決勝レース1。50周で争われるこのレースで5ZIGEN NSXのスタートドライバーを担当したのは平中選手。その平中選手は危なげのないスタートを切ると、レース序盤こそ#15 (KYOSHOメーカースポーツ自動車RX-7) の追撃を受けたものの、50周レース (ST3クラスは最終的に47周チェッカー) の3分の2以上となる32周目まで走行を続け、最後は後続に大差をつける形でピットイン。吉本大樹へとステアリングを託していく。するとその吉本も残りの15周を後続の追撃を許さぬ盤石の走りで見事な走りを見せ、そのままトップでゴール。今シーズン3度目の優勝を飾ると同時に、最終の決勝レース2を残すこの時点で2009年スーパー耐久シリーズ (ST3クラス) のシリーズチャンピオンに輝く事となった。

最後は2009年のシリーズチャンピオンとして迎えた最終決勝レース2。タイトルは決定しているものの、やはりここは最後に優勝で有終の美を飾りシーズンを終えたいところ。その5ZIGEN NSXのレース2スタートドライバーを担当したのは吉本大樹。しかしその吉本はスタートこそますますの出足を見せたものの、その後オーバルコースでは致命傷ともなりかねないブレーキがフェードする症状が現れ始めると、ブレーキングで20メートル程のアドバンテージを誇る#15 (KYOSHOメーカースポーツ自動車RX-7) の先行を許しその差も徐々に開いてしまう展開に。燃料が軽くなればブレーキの温度も下がり楽になるのは確かだが、序盤無理をしすぎると後半もたない可能性もある。結局吉本は自分のステアリングを最後まで大事に走り、レースも丁度半分となる24周目にピットイン。この時ブレーキ温度上昇のためABSが誤作動してしまったのか、指定位置に止められず5メートル程オーバーシュートしたものの、ここは大きなロスもなく松浦孝亮選手にステアリングを託していく。

するとステアリングを受けた『ミスターNDY』こと松浦選手がここから猛スパート。「ブレーキがフェードしてたけど、止まりきれなくて逆に速かった (笑)」とST3クラスの予選タイムを上回る程のハイペースで#15 (KYOSHOメーカースポーツ自動車RX-7) を追い詰めていく。するとレースも残り3周となったところでチャンスが訪れる。このプレッシャーからミスの出始めた#15 (KYOSHOメーカースポーツ自動車RX-7) がシフトミス！ターン3の立ち上がりで並びかけるとそのまま見事にオーバーテイク。これでトップに返り咲く事に成功すると、松浦選手は残り周回も全く危なげのない走りで見事な走りを見せ、2009年シリーズタイトル獲得に華を添える2連勝で最終戦を締めくくる事となった。

PERSONAL SPONSORS



PARTNERS



UNLIMITED Co., Ltd

大阪府大阪市西区北堀江1-21-12
米澤ビル北堀江902号

Tel : (81)06-6536-0474
Fax : (81)06-6536-0475
e-mail : info@unlimited-sports.co.jp
official site : www.hiroki-yoshimoto.com

Hiroki Yoshimoto Official Report

No. 091130129-2



www.hiroki-yoshimoto.com

Race Report

28 November, 2009 (Twin Ring Motegi)



5ZIGEN NSX リザルト / Result

(Qualify / 09.11.28)

No.	Team	Pos.	Time	Gap	
5	TEAM 5ZIGEN (NSX) / K.Hiranaka(A)	-	53"903	-	
5	TEAM 5ZIGEN (NSX) / H.Yoshimoto(B)	-	53"654	-	
5	TEAM 5ZIGEN (NSX) / (A)&(B)	PP	1'47"557	-	

(Race 1 / 09.11.28)

No.	Team	Pos.	Laps	pt	Total Time
5	TEAM 5ZIGEN (NSX)	1 st	47	12	44'07"425

(Race 2 / 09.11.28)

No.	Team	Pos.	Laps	pt	Total Time
5	TEAM 5ZIGEN (NSX)	1 st	48	12	44'32"515

吉本大樹 / Hiroki Yoshimoto

金曜日の走り初めから良い感触がつかめ、トラブルを解消しつつ向かえた予選では3人のタイムがそろい、しっかりとタイムをまとめる事が出来ました。

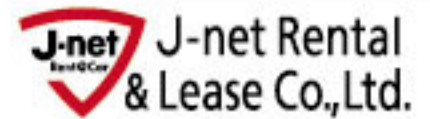
Race1ではしっかりシリーズチャンピオンだけを狙ったのですが、結果的には大きなアドバンテージを残したまま勝つことができ、Race2でもブレーキのフェードで序盤苦しみました。後半の松浦選手がオーバルマイスターぶりを発揮してくれて、土曜日の一日だけでポールtoダブルダブルウィンを味わわせてもらいました！

5ZIGENとプロのドライバー3人で参戦した以上、結果を出さない訳にはいきませんでした。チームの皆、5ZIGEN社員の皆さん、スポンサーの皆さん、そしてファンの皆さん、応援ありがとうございました！

We are the Champion!!!!!!



PERSONAL SPONSORS



PARTNERS



UNLIMITED Co., Ltd

大阪府大阪市西区北堀江1-21-12
米津ビル北堀江902号

Tel : (81)06-6536-0474
Fax : (81)06-6536-0475
e-mail : info@unlimited-sports.co.jp
official site : www.hiroki-yoshimoto.com